

UNIT 10 不定詞① 不定詞の基本・否定語の位置

1. お気に入りの音楽に合わせて踊るのはとても楽しい。	To dance to my favorite music is a lot of fun. ≒ It is a lot of fun to dance to my favorite music.
2. 最も効率的な作業の仕方は、一度に一つのことをし、それに集中することです。	The most efficient way of working is to do one thing at a time and focus on it.
3. 調理後に(コンロの)火を止め忘れてしまい、鍋の底が焦げた。	I forgot to turn off the stove after cooking, so the bottom of the pot burned.
4. 駅の売店で、電車の中で読む雑誌を買った。	I bought the magazine to read on the train at a stand in the station.
5. 父は結婚記念日を祝うために母を夕食に連れて行った。	My father took my mother out for dinner to celebrate their wedding anniversary.
6. 飼う人間がよくないと、いい犬に育たないそうですね。	I hear that dogs don't grow up to be good dogs if their owners are not good people.
7. その結婚式で恩師に会えたのはうれしい驚きでした。	I was pleasantly surprised to see my former teacher at the wedding.
8. 今日はお米を5合炊いたんだよ。一人で全部食べちゃうなんてよっぽどお腹が空いているんだね。	I cooked five cups of rice today. You must be very hungry to eat all of that by yourself.
9. このスポーツクラブのロッカールームは広くて使いやすい。	The locker room in this gym is large and easy to use.
10. 健康的なものにするために、あなたは料理であまり多くの塩を使わないようにしなければならない。	We must try not to use too much salt in your cooking so as to make it healthier.
11. 今朝は朝練に遅れないように母親に駅まで車で送ってもらった。	I was given a ride to the station in my mother's car this morning so as not to be late for my morning practice.

不定詞

不定詞という名前は、文の主語の人称や数によって形を変えない点に由来する。不定詞には**to不定詞**と**原形不定詞**とがあり、今回と次回に分けて学習する。

to不定詞：to+動詞の原形

文の中で名詞・形容詞・副詞の働きをする。

名詞用法：主語・補語・目的語として使う

[例文1] 「to dance ~ music」の部分が「お気に入りの音楽に合わせて踊ること」という意味を表している。全体として「~すること」というひと固まりの名詞と感じられるので**名詞用法**と呼ぶ。このように文の**主語**として使われる場合、ふつう it を文頭に置き、to不定詞を後ろに回す。

[例文2] 「to do ~ focus」の部分が「一度に一つのことをし、それに全力を傾けること」という意味を表している。この場合は be 動詞の**補語**として使われ、文の主語と等しい。

[例文3] 「to turn ~ cooking」の部分が「調理後に火を止めること」という意味を表している。この場合は forget という他動詞の**目的語**として使われ、忘れた内容を表している。

形容詞用法：名詞を修飾したり、名詞の表す内容を説明する

[例文4] 「to read ~ train」の部分が the magazine という**名詞の直後**にきて、「雑誌は雑誌でも電車内で読む雑誌」と、「雑誌」という名詞を修飾している。名詞を修飾することから**形容詞用法**と呼ぶ。

副詞用法：主に、動詞や形容詞を修飾する

[例文5] 「to celebrate ~ anniversary」の部分が「結婚記念日を祝うために」と、「父が母を連れて行った」**目的**を表している。「連れて行く」という動詞を修飾することから**副詞用法**と呼ぶ。

[例文6] 「to be ~ dogs」の部分が grow up した**結果**を表している。目的と紛らわしいが、例文6のように最初からそうする意図があったのなら**目的**、なければ**結果**を表すと理解しよう。

[例文7] 「to see ~ wedding」の部分が「結婚式で恩師に会えて」と、この人がなぜ驚いたのか、**感情の原因**を表している。

[例文8] 「to eat ~ yourself」の部分が「全部一人で食べちゃうなんて」と、お腹が空いているに違いないと推定したこの人の**判断の根拠**を表している。

[例文9] 「to use」の部分が「使用する点で」楽だ、と、easy という**形容詞の適用範囲を限定**している。

to不定詞の否定形：not [never] + to不定詞

toの直前にnot (か、場合によってはnever) を置く。

[例文10] 「**not** to use ~ cooking」の部分が「料理であまり多くの塩を使いすぎないこと」という意味を表し、try という他動詞の**目的語**として使われ、努力の内容を表している。

また、「so as to make it healthier」の部分は「それを健康的なものにするために」努めるべきだと、努力の**目的**を表している。これまで見てきたように to不定詞には様々な用法があるが、このように to不定詞の前に so as (または in order) をつけることで**目的の意味をはっきり**させることができる。

[例文11] 「so as **not** to be late ~ practice」の部分が「部活の朝練に遅れないように」と、車で送ってもらった目的を表している。なお、so as の代わりに in order を使い「in order not to be late ~ practice」とするのは実際には稀だ。